

高苑科技大學應用外語系  
應用語言專題實作  
(大學部)

專題名稱：

(日) 日本植民地時代における閩南語歌謡をめぐって

(中) 日治時代的閩南語歌謡之探討

組	員：陳如慧	めぐみ	49002391
	范書榕	ふみこ	49103078
	周瓊玉	かりん	49103236
	詹雅雯	まさこ	49103365
	廖怡秋	あきこ	49103378
	林幸姿	さち	49103407
	黃宜君	みどり	49103436

指導老師：葉露茜

中華民國九十四年十二月

# 目次

序論.....	2
<b>第一章 台湾の歌謡事情—閩南語歌謡をめぐって—</b>	
1-1 移民早期.....	3
1-2 日本植民地時代.....	4
1-3 戦後の時代.....	6
1-4 戒厳令がとかれた以降.....	7
<b>第二章 日本植民地時代の閩南語歌謡の作曲家と作詞家について</b>	
2-1 作詞家李臨秋について.....	10
2-2 作詞家周添旺について.....	14
2-3 作詞家陳達儒について.....	18
2-4 作曲家鄧雨賢について.....	21
2-5 作曲家陳秋霖について.....	21
2-6 作曲家楊三郎について.....	22
<b>第三章 台湾民衆の閩南語歌謡に関する意識の実態調査</b>	
3-1 対象者の基本データ.....	24
3-2 調査結果と分析.....	26
<b>第四章 結論.....</b>	<b>35</b>
参考文献.....	37
調査票の中国語原文.....	40
調査票の日本語翻訳文.....	41

## 序論

幼い時、よく、おじいさんとおばあさんの悲しそうな歌声を耳にしていた。私たちは、「何を歌ってるの、どうして、そんな悲しいの」と聞いたら、「子どもはそんなことを聞くもんじゃない」という返事であった。理由をあまり話したくないように感じていた。

おじいさんたちはちょうど日本植民地時代（以下「植民地時代」という）に生まれ、辛い生活を体験したため、昔のことを思い出したくないかもしれないと私たちは思っている。

私たちのグループのメンバーは、1980年以後に生まれ、母語は閩南語<sup>1</sup>であり、成長してきた周りの環境はすべて閩南語文化と密接な関係にあった。特に、閩南語歌謡に興味を引かれていた。

このプロジェクトの目的は閩南語歌謡の研究を通し、閩南語歌謡についてのこととその時代のことを知ることである。

ここ数年、ラジオやテレビなどでは、おじいさんたちが歌った歌謡がよく放送され、歌謡シリーズの番組<sup>2</sup>も制作されている。一方、第二次世界大戦以降（以下「戦後」という）、台湾に移ってきた国民党政権の「国語（中国語<sup>3</sup>）普及政策<sup>4</sup>」によって中国語の歌謡が台湾の音楽市場の大半を占めているから、閩南語歌謡のに触れる機会が少なくなっている。そのうえ、西洋文化や日本文化（例えば、「哈日族<sup>5</sup>」という現象）も台湾に大きい影響を与えている。台湾民衆の閩南語歌謡に対する意識がどうなっているのか、特に今日の台湾の若者は閩南語歌謡についてどう思っているのか、本プロジェクトのもう一つの目的は、その意識の実態を解明するとともに、閩南語歌謡の発展を考えることにある。

私たちは本プロジェクトの紹介を通し、特に我々の年代の若者に閩南語歌謡に関心を持ってほしいと待ち望んでいる。

なお、本プロジェクトは以下のような構成である。第一章では、台湾の歌謡事情について述べる。第二章では、日本植民地時代における閩南語歌謡の作曲家と作詞家について紹介する。第三章では、台湾民衆の閩南語歌謡に関する意識調査の結果と分析をまとめる。第四章では、結論を述べる。

---

<sup>1</sup>閩南語（ピンナン語）は台湾では「ホーロー語」、また「台湾語」とも呼ばれている。台湾では福建省（「閩」と略称する）南部から台湾に移住した閩南人（ホーロー人）の生活言語である。本来は中国・福建省南部の中国語方言である。方言と言っても標準中国語である北京語（マンダリン）とは別個の言語ほどに発音が異なっている。「台湾を理解するためのキーワード」

[http://izumo.cool.ne.jp/masanori\\_asami/Taiwan/keywords\\_tw\\_20040123.html](http://izumo.cool.ne.jp/masanori_asami/Taiwan/keywords_tw_20040123.html), 2005.12.08

<sup>2</sup>例えば、CTS（中華テレビ局）の「台湾無線唱吟」、「台湾史望春風」という番組である。

<sup>3</sup>本稿では北京語のことを指す。

<sup>4</sup>1947年に中国から蒋介石が率いる国民党および中国各地方の住民が台湾に移り行政を司った。国民党政権は、国策として公の言葉を北京語（国語と称する）に設定し、国語運動綱領を定めたり、映画、宗教、マスメディアなどにおいて日本語や閩南語の使用を禁じるなど、国語教育の普及に力を注いだ。

「WEB Peripatos」<http://www.kirihara-kyoiku.net/peripatos/02/01.html>, 2005.12.15

<sup>5</sup>「哈日族（ハーリーズ）」とは、日本ブームの台湾で日本の大衆文化にあこがれる日本大好きな人のことを指す言葉である。

「台湾を理解するためのキーワード」

[http://izumo.cool.ne.jp/masanori\\_asami/Taiwan/keywords\\_tw\\_20040123.html](http://izumo.cool.ne.jp/masanori_asami/Taiwan/keywords_tw_20040123.html), 2005.12.15.

# 第一章 台湾の歌謡事情

## 一 閩南語歌謡をめぐる一

### 1-1 移民早期

台湾にはもともと、現在では「原住民」と呼ばれるマレー・ポリネシア系の先住民族の人々だけが住んでいた。

17世紀以降、オランダが東アジア進出の拠点として、台湾を占領した。17世紀の後半(中国清朝の初め)に鄭成功<sup>1</sup>は「反清復明(清朝に抗し、明朝を回復すること)」のため、軍隊を率いて、オランダ人占領下の台湾を奪取し、反攻態勢を整えていた。鄭軍とともに中国の福建省(「閩」と略称)や広東省から多くの漢人が台湾に移ってきた。

鄭の政権が清朝に敗れた後、台湾は再び清の領有地になった。清朝が「反清復明」の勢力を鎮圧するために台湾への移民を制限したにもかかわらず、密航者はあつとを絶たず、福建省南部、広東の貧困な地域の大勢の住民が生き残るため、台湾海峡を渡り、台湾に移住した。

故郷を思うことから、人々は故里の歌謡(閩南語や広東省の客家語<sup>2</sup>歌謡など)を歌うことで、郷愁を慰めることや疲労を忘れることができた。歌謡は当時の人々の日常生活の楽しみの一つであった。開墾時期において、歌謡の素材はほとんど日常生活から取り入れたもので、人生の意義や道理を語り、各職業の生活状況や社会現象を描き、楽天や希望などに満ちていた。日本植民地時代までの二百年余りの間、歌謡はこの土地に生まれ、盛んになり、奇抜な風格と特色を孕んだ。

<sup>1</sup>中国の明朝の遺臣で抗清闘争の代表的指導者で、生没年は1624~1662であった。

<sup>2</sup>客家語(ハッカ語)は、客家人が使用する中国語の方言で、標準中国語である北京語(マンダリン)とは別個の言語ほどに発音が異なっている。主に広東省広東東部、福建省福建西部、江西省南部の山間部に分布する。

「客家語—Word」<http://bright7.com/8B7189C68CEA/>, 2005.12.19

## 1-2 日本植民地時代 (1895年-1945年)

清朝の治下の初めは台湾の人口は約30万人であったが、19世紀末には、台湾の人口は約260万人<sup>3</sup>に達した。その中で福建省南部、つまり「閩南」の住民は台湾全体の半分以上を占めたため、閩南語の人口が多かった。

1895年に清朝は日清戦争で敗戦したため、台湾を日本に割譲した。台湾総督府<sup>4</sup>は統治初期において懐柔策<sup>5</sup>を実行したが、台湾における反日運動に対して高圧政策を強行した。文化面では、日本の音楽教育を実施し、日本を批判する意味合いのある歌謡や反日意識を引き起こす恐れがある歌謡など、禁止されていた。植民地時代初期から1920年代まで台湾の歌謡は大きい打撃を受けた。

なお、閩南語歌謡の流行は1932年に遡ることができる。当時はテレビがなく、手動の蓄音機も少なかった時代であった。レコードも西洋のクラシックや日本の歌、その他には「歌仔戯<sup>6</sup>」などの伝統芸能しかなかった。

1930年代、中国の上海では映画が盛んであった。1932年に、「上海聯美影業製片印刷公司」の製作した「桃花泣血記<sup>7</sup>」という映画が台湾で上映された。当時は映画と言えば、まだ無声映画の時代なので、上映中に観客に映画の内容を語る「弁士」という重要な人物がいた。台湾の映画配給会社<sup>8</sup>は観客を集めるために、「桃花泣血記」を宣伝する歌謡を作るという方法を考え出した。台北の大稻埕（現在の大同区）で一番と言われた有名な弁士の詹天馬と王雲峰に歌謡の創作を依頼し、「歌仔戯」出身の純純という歌手に歌わせた。上映期間中、宣伝歌謡は毎日台北市の繁華街で演奏されたため、この「桃花泣血記」の映画によって、閩南語歌謡の新しい歴史が始まった。

当時、日本コロムビアの台湾責任者の柏野正次郎が宣伝歌謡の広まりを見て、それが新しいビジネスチャンスであると思いついた。柏野によって「桃花泣血記」の宣伝歌謡は閩南語歌謡初のレコードになって発行された。それから、コロムビアレコード会社（第二章参照）は詞と曲の創作の才能がある人を募集し、大量の閩南語歌謡のレコードを作った。鄧雨賢や李臨秋や周添旺などの音楽家（第二章参照）が良い環境の中で多くの創作を生み出し、閩南語歌謡の新しい道を開けた。

1932年から1939年までは、閩南語歌謡の盛んな時代であった。しかし、異民族に統治された環境により、閩南語歌謡の創作時代のピークに作曲家と作詞家たちが作った歌謡は悲哀や苦悶の気持ちに溢れ、悲嘆のメロディーに偏っていた。

1941年4月に台湾で「皇民奉公会<sup>9</sup>」が成立された。そのため、漢文が使えられなくなり、閩南語歌謡を歌うのも禁止されていた。それらの制限と同時に、当時流行した多くの

<sup>3</sup> 「台湾の歴史——オランダから日本植民統治まで」 <http://www.wufi.org.tw/jpn/jng13.htm> ,2005.12.19

<sup>4</sup> 清国から日本へ割譲され、日本の植民地となった台湾を統治するために設置された当時の日本の官庁名である。

<sup>5</sup> 懐柔策というのは、台湾の住民に対して優位に取り扱う政策のことである。

<sup>6</sup> 「歌仔戯」は、現在台湾オペラとも言われている。中国の福建省の各種民謡が台湾で混ざり合ってきたもので、日本植民地時代に広く人気を集めていた伝統芸能の一つである。

<sup>7</sup> 有名な監督の卜萬蒼が作った映画である。内容は、お金持ちの知識青年と貧しい羊飼いの女性の恋物語であった。彼らは自由恋愛のために努力したが、社会の伝統的な考え方の圧力で、分かれてしまった。婚姻は社会と家庭の環境に束縛されるべきではないという訴えであった。

<sup>8</sup> 映画配給会社というのは、映画を買い、それを映画館で上映させる会社である。

<sup>9</sup> 皇国精神の徹底を図り、普通教育を振興し、言語風俗を匡励して忠良なる帝国臣民たるの素地を培養することである。「台湾の歴史——植民地時代の近代化」

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/6613/Taiwan/History/history8.html> ,2005.12.19

閩南語歌謡も日本語の歌詞に書き換えられ、政令を宣伝するための「時局音楽」とされたのである。例えば、『望春風』は『大地の召喚』に、人々の聞き慣れていた『雨夜花』は『榮譽の軍夫』に、『月夜愁』は『軍夫の妻』に変わった。これらの広く流行した閩南語歌謡の曲は健在していても、歌詞は日本軍国化された。台湾総督府は「時局音楽」のレコードを製作し、台北の放送局から頻繁に放送した。これは閩南語歌謡の発展に非常に大きい打撃を受けさせた。そのため、閩南語歌謡の盛んな時代が終わった。

### 1-3 戦後の時代 (1946年-1987年)

1946年に台湾は「光復（植民地から解放さて、祖国の中国のもとへ復帰したこと）」した。台湾の人々は心の奥から喜びを發した。台湾の「光復」につれて若手の音楽家が台湾に帰り、音楽家先輩の指導のもとで、閩南語歌謡の創作ブームを起こした。「光復」初期、民衆の生活の苦しみや生活のために奔走するなど、社会の各職業の状況を反映する歌謡が現れた。例えば、『焼肉粽』と『收酒罈』は仕事の苦樂を描いたものである。『思念故郷』と『阮若打開心內的門窗』は故郷を離れて都会へ稼ぎに出掛けた若者の心境を語ったものである。日本人の統治から抜け出したこの時期において、人々が祖国の中国に復帰できた喜びが歌謡に反映された。軽快なメロディーが多くなった。『淡水暮色』、『西北雨』、『港都夜雨』、『安平追想曲』、『思念故郷』、『滿山春色』などがこの時期の代表作であった。

しかし、この歌謡の新たな創作ブームは光復してまもなく起きた228事件<sup>10</sup>によってほとんど落ち込んでいた。228事件に関連して行方不明になった人や亡くなった人が大勢いた。その中で、文学関係者もかなり多かった。そのため、文学者はあまり創作しなくなった。歌謡界もこの事件の影響を受け、大勢の人は音楽を作ることを捨て、商業に従事した。

1950年代、レコード会社は閩南語流行歌謡の制作コストを減らすために、日本語の歌の曲に台湾語の歌詞をつけた「混血音楽」を多く世に送りだした。例えば、『媽媽請您也保重』、『悲情的城市』、『台北發的尾班車』などの歌謡である。50年の植民地統治を受けてきたことによって、多くの台湾人は日本のメロディに親しんでいた。そのため、「混血音楽」の歌謡が受けられ、閩南語歌謡の市場を占拠するようになった。しかし、これらの「混血音楽」について、多くの学者はそれが正統な閩南語歌謡ではないと指摘した。正統な閩南語歌謡は曲も歌詞も台湾人のオリジナルな創作であるべきだという考え方からであった。大勢の作曲者は再びオリジナルな曲を作りはじめたが、歴史と文学の専門家の莊永明が指摘したように1950年代が「混血音楽」の時代であったと言えよう。

この時期、西洋の科技や文化が台湾に導入された後、西洋文化を崇拜する雰囲気は社会全般に溢れ、台湾民衆は自己の文化に対する自信が次第に失っていた。西洋の歌謡についての評価はほとんど中国語歌謡のと同じであった。閩南語歌謡の品質が次第に悪くなることにつれて、エリートたちに軽蔑されるようになった。その後、閩南語の創作歌謡も多少あったが、たいていの作品は植民地時代に対する消極的な態度や悲しいスタイルから抜け出せなかった。

1950年代以降、国民党政権が「国語普及政策」を推進したため、中国語が台湾中に普及した。そのうえ、マスメディアで閩南語歌謡の放送も1日に2曲に限られたので、歌謡を支持する聴衆者が次第に少なくなっていた。この「国語普及政策」により閩南語歌謡に大きな影響を及ぼした。

<sup>10</sup> 228事件とは1947年2月28日、台湾を支配して間もない国民党政府の抑圧的政策や腐敗に対して抗議行動を起こした人々に向けて当局が発砲し、多くの死者を出した弾圧事件である。

「台湾・第2の光復（1）親日の謎を解く記念館」<http://tanakanews.com/a0330taiwan.htm> 2005.12.19

#### 1-4 戒厳令が解かれた以降（1987年以降）

1987年に国民党政権の施行した戒厳令が解かれたため、生活はますます多様化になった。同年、作家たちによって「台湾筆会<sup>11</sup>」という民間団体が構成され、閩南語の重要性も再び討論され、重視されはじめた。閩南語歌謡にも変化が生じ、戦後中国から台湾に移した外省人<sup>12</sup>も閩南語歌謡を楽しみに歌い始めた。閩南語歌謡は再び音楽市場の主役になっていた。閩南語歌謡のすばらしさも見直された。

1990年に流行歌謡のレベルを上げるために、「金曲獎」というレコード大賞が設立された。閩南語歌謡は1932年から世に広く知られ、禁止されたり軽蔑されたりした時期を経て、1990年代に入ってから再び重視されるようになった。南語歌謡だけでなく、原住民語歌謡、客家歌謡などの創作も少しずつ増えていた。各言葉の歌謡歌手も金曲獎の受賞によって評価されるようになった。

以上は閩南語歌謡の移り変わりをまとめてみた。次の章では、優れた閩南語歌謡を創作した植民地時代の代表的な作詞家と作曲家について述べる。

---

<sup>11</sup> 台湾筆会は1987年1月18日に成立された。主な宗旨は、文学者の人権を保障し、台湾新文化を創造し、そして、台湾文学を編集することなどである。

<sup>12</sup> 台湾住民は大きく分けると「本省人」と「外省人」がいる。「本省人」は終戦以前から台湾に住んでいた閩南人と客家人を指す。「外省人」は戦後、蒋介石の国民党政府とともに、またそれ以降中国大陸から台湾に移ってきた人々を指す。「本省人」の母語は一般的には閩南人は閩南語で、客家人は客家語である。「外省人」は北京語を母語とする。



## 第二章 日本植民地時代の閩南語歌謡の作曲家と作詞家について

日本植民地時代におけるたくさんの優れた閩南語歌謡は、当時の台湾民衆の悲哀や苦悶の気持ちを癒していた。ここで素晴らしい作品を世に送り出した代表的な作詞家と作曲家を下記の表1にまとめる。

表1 日本植民地時代の閩南語歌謡の代表的な作詞家と作曲家

	名前	生年	没年	出身地	代表的な作品
作詞家	李臨秋	1909	1979	台北	『望春風』 『四季紅』 『補破網』
	周添旺	1910	1989	台北市萬華	『月夜愁』 『秋風夜雨』 『雨夜花』
	陳達儒	1917	1992	台北市萬華	『心酸酸』 『白牡丹』
作曲家	鄧雨賢	1906	1945	桃園県	『望春風』 『月夜愁』 『雨夜花』
	陳秋霖	1911	1991	台北社子	『白牡丹』 『滿山春色』
	楊三郎	1919	1989	台北県永和	『望你早歸』 『孤戀花』 『秋風夜雨』 『異郷夜月』

なお、以上の作曲家と作詞家の創作した作品が台湾中に広まったのは、歌謡レコードの発行によるものであった。当時のレコード会社を三つあげて下記の表2にまとめる。

表2 日本植民地時代におけるレコード会社

<p>コロムビア レコード会社</p>	<p>コロムビアレコードは映画「桃花泣血記」を発売した後、閩南語歌謡に投資し始め、鄧雨賢、周添旺、李臨秋、陳秋霖など優秀な作詞家と作曲家を招聘した。1933年に閩南語歌謡のレコードを正式に発行した。それが大きな反響を呼び、すぐ売り切れになり、閩南語歌謡の広がりにつながった。</p> <p>李臨秋の作品：『望春風』、『四季紅』、『補破網』など。 周添旺の作品：『月夜愁』、『雨夜花』、『河邊春夢』など。 鄧雨賢の作品：『望春風』、『月夜愁』、『雨夜花』など。 陳秋霖の作品：『白牡丹』など。</p>
<p>ビクター レコード会社</p>	<p>1934年に台湾支社を成立し、陳達儒、陳秋霖など優秀な作曲家と作詞家を招き、ヒット曲をたくさん製作し、レコード業界で話題を呼び、迅速にコロムビアレコード会社と並んでいた。</p> <p>陳達儒の作品：『南都夜曲』、『安平追想曲』、『心酸酸』など。 陳秋霖の作品：『滿山春色』など。</p>
<p>東亜 レコード会社</p>	<p>1937年、日中戦争の勃発により、コロムビア会社のレコードの発行数が少なくなったため、1938年に作曲家の陳秋霖は友達と合資して東亜レコード会社を創立した。翌年、会社は帝蓄レコード会社という社名に変更したが、皇民化運動が盛んであったため、閩南語歌謡の売れ行きがうまく行かなかった。1939年についに倒産した。</p> <p>陳秋霖の作品：『阮不知啦』、『心茫茫』、『港邊惜別』など。</p>

## 2-1 作詞家李臨秋について

1909年に台北に生まれ、幼い頃から良い教育を受けたが、家が没落してから、働きはじめざるをえなかった。1930年から李は親戚の陳天來<sup>1</sup>の永樂座映画館で茶房<sup>2</sup>として働いていた。ある上映中の時、映画内容を説明する弁士の詹天馬が字幕の文字が一つ読めなかったが、李臨秋に小声で教えてもらったため助かった。そのことから、詹天馬は李臨秋の文学才能を評価し、彼に映画に関する文章を任せていた。



李は映画の宣伝歌謡を作り始め、1932年から1934年まで、「懺悔」、「倡門賢母」、「人道」、「一個紅蛋」の映画の宣伝歌謡を作っていた。また、1933年に、作曲家の鄧雨賢と合作して作った『望春風』は、歌い継がれるヒット歌謡である。1938年、再び鄧と創作した『四季紅』は、哀愁をおびた殆どの閩南語歌謡と違い、軽快な男女のデュエットで、今でも皆に愛唱されている。1948年、音楽家の王雲峰と創作した『補破網』は、希望と意志に満ちた歌謡である。

1960年、李は映画制作に興味を示し始めた。一作目の映画の「桃花郷」はよく売れたが、次の「搖鼓記」、「沉香扇」はあまり売れなかったため、大きな損失をもたらした。1970年以降、李は殆ど歌詞を創作することはなかった。1977年、作曲家の林二の誘いで、再び聴衆の前に出て、昔の作品を発表した。1979年2月に69歳でこの世を去った。

次の節で、代表的な作品を紹介する。

---

<sup>1</sup>永樂座映画館の支配人である。

<sup>2</sup>映画館の観客にお茶を入れる人である。

## 2-1-1 代表的な作品 『望春風』

李は家が没落したため、小学校の学歴しか持っていなかったが、自ら文学を勉強していた。若い男女の心を繊細に描いたこの『望春風』は、閩南語歌謡の代表曲として高く評価されている。

この歌はたとえ70数年を経ても、歌い継がれている。現在の若手の歌手<sup>3</sup>もこの歌に注目し、新たに曲を編集してこの古い歌謡に新しい命を吹き込んだ。

『望春風』 詞：李臨秋 曲：鄧雨賢

中国語の歌詞（日本語歌詞の要約）

獨夜無伴守燈下	清風對面吹	（一人過ごす夜 灯下にて清風を受ける <sup>4</sup> ）
十七八歲未出嫁	見著少年家	（まだ嫁がぬ十七八歳 青年と出会う）
果然標緻面肉白	誰家人子弟	（色白の整った顔立ち どの家の人かしら）
想要問伊驚歹勢	心内彈琵琶	（問いたくとも口に出せず 胸が高鳴る）
想要郎君作尪婿	意愛在心裡	（彼と結ばれたい 恋心を抱く）
等待何時君來採	青春花當開	（迎えにきてくれるかな 美しき青春のうちに）
聽見外面有人來	開門該看覓	（人の気配に 扉を開ければ）
月娘笑阮愁大呆	被風騙不知	（風の音だよと 月が笑う）

<sup>3</sup> 例えば、男性歌手の陶吉吉、朱約信など。

<sup>4</sup> 『望春風』の日本語歌詞は下記のホームページを参照

「Sino」[http://www.sinorama.com.tw/jp/current\\_issue/show\\_issue.php?id=200269106006j.txt&page=5&show=](http://www.sinorama.com.tw/jp/current_issue/show_issue.php?id=200269106006j.txt&page=5&show=),2005.12.19

## 2-1-2 代表的な作品 『四季紅』

1938年に発表されたこの歌謡は軽快なメロディーで、若い男女が四季を楽しみ、愛し合う歡樂な恋歌である。

『四季紅』 詞：李臨秋 曲：鄧雨賢

中国語の歌詞（日本語歌詞の要約）

春天花吐清香 雙人心頭齊震動

（春の花がいい香りをした 二人は胸が躍る）

有話想要對你講 不知通也不通

（男：話したいことがある ちょっと聞いてくれないか）

叨一項

（女：なんですか）

敢也有別項

（男：わかってるだろう）

目咬笑 目睭講 你我戀花朱朱紅

（二人は喜んでいて 愛は満開の花のように）

夏天風正輕鬆 雙人坐船在遊江

（夏の風が吹くと 気持ちがよくなる 二人は船で遊びに行く）

有話想要對你講 不知通也不通

（男：話したいことがある ちょっと聞いてくれないか）

叨一項

（女：なんですか）

敢也有別項

（男：わかってるだろう）

目咬笑 目睭講 水底日頭朱朱紅

（二人は喜んでいて 愛は真夏の太陽のように）

秋天月照紗窗 雙人相好有所望

（秋の月がロマンチック 二人の愛が結ばれる）

有話想要對你講 不知通也不通

（男：話したいことがある ちょっと聞いてくれないか）

叨一項

（女：なんですか）

敢也有別項

（男：わかってるだろう）

目咬笑 目睭講 嘴唇胭脂朱朱紅

（二人は喜んでいて 愛は真っ赤な口紅のように）

冬天風真難當 雙人相好不驚凍

(冬の風が寒くても 二人は幸せだ)

有話想要對你講 不知通也不通

(男：話したいことがある ちょっと聞いてくれないか)

叨一項

(女：なんですか)

敢也有別項

(男：わっかてるだろう)

目咬笑 目睭講 愛情熱度朱朱紅

(二人は喜んでいて 愛は深くなる)

## 2-2 作詞家周添旺について

1910年12月25日に台北市萬華に生まれた。6歳の時、漢文学を習い、詩詞に興味を持ちはじめた。1933年5月1日に、当時24歳の周添旺はコロムビアレコード会社に入社した。周は創作した『月夜愁』の歌詞が会社に評価され、翌年に文芸部の主任に昇進された。周は更に『雨夜花』、『碎心花』、『河邊春夢』などの名曲を作り、閩南語歌謡界での地位を確立した。



周は楊三郎とよく合作し、たくさんの歌を作っていた。戦後、楊と『異郷夜月』、『孤戀花』、『思想故郷』、『秋風夜雨』などの有名な作品を作っていた。また、豊富な知識のうえに文筆にも親しんでいたため、世に「創作閩南語歌謡史」を残していた。61歳の時、『西北雨』を発表し、再び評価されていた。1989年4月21日に79歳でこの世を去り、台北の八里郷で永眠していた。墓標に墓誌銘の代わりに生前の自信作の『雨夜花』、『月夜愁』、『河邊春夢』、『秋風夜雨』の4曲が刻まれている。

## 2-2-1 代表的な作品 『月夜愁』

作曲は鄧雨賢に依頼し、1933年に「コロムビアレコード」によって発行された。作詞者の周添旺は当時まだ24歳であった。この歌は周を台湾の歌謡界の頂点に立たせた傑作として今日でも高く評価されている。

人も車も少なかった1930年代の台北の町で、恋人たちはよく月明かりに照らされる静かな道で散歩したりした。しかし、そんなロマンチックな光景は失恋した人にとってとても耐えがたいことであった。周は、「怨嘆月暝（悲しい月夜）」、「無聊月暝（つまらない月夜）」、「憂愁月暝（気がふさぐ月夜）」を以て度々月を見ては憂いを興し、失恋した人の情けない心境を繊細に描いた。なお、日中戦争の影響で、この『月夜愁』は「時局音楽」政策により、『軍夫の妻』という「時局音楽」に書き換えられた。

『月夜愁』 詞：周添旺 曲：鄧雨賢

中国語の歌詞（日本語歌詞の要約）

月色照在三線路 風吹微微 等待的人那未來

（月は道を照らす かすかな風が吹く あの人はまだ来ないの）

心内真可疑 想味出彼個人 啊～怨嘆月暝

（いらいらしちゃう あの人はどうしてすっぽかしたのか さっぱり分からない ああ 悲しい月夜）

更深無伴獨相思 秋蟬哀啼 月光所照的樹影

（夜中 一人でとても寂しい 秋のセミの鳴き声は悲しそうに聞こえる 月は木の影を照らす もっと悲しくなる）

加添阮傷悲 心頭酸目屎滴 啊～無聊月暝

（心が痛んで涙がこぼれる ああ つまらない月夜）

敢是註定緣份 所愛的伊 因和乎阮放味離

（まさか 縁がない どうして愛してる彼を忘れられない）

夢中來相見 斷腸詩唱味止 啊～憂愁月暝

（夢の中で会いたい 悲しい歌は終わらない ああ 気がふさぐ月夜）



## 2-2-2 代表的な作品 『雨夜花』

作曲は鄧雨賢に依頼した。1934年に初版が発行されたが、植民地時代にわたって4回ほど発行されていた。歌詞は周添旺の風格の表れで、結ばれなかった恋の哀愁と苦痛を描くものであった。1938年にこの『雨夜花』も「時局音楽」の政策により『蒼れの軍夫』というタイトルに変わり、曲のテンポが速くなり、軍歌の歌詞に書き換えられ、国民の皆に歌わせた「時局音楽」となった。

『雨夜花』 詞：周添旺 曲：鄧雨賢

中国語の歌詞（日本語歌詞の要約）

雨夜花 雨夜花 受風雨吹落地	(雨の降る夜に 咲いてる花は)
無人看見 毎日怨嗟 花謝落土不再回	(濡れて揺られて ほろほろ落ちる)
花落土 花落土 有誰人尙看顧	(紅がにじんで 紫ぬれて)
無情風雨 誤阮前途 花蕊哪落欲如何	(風のまにまに ほろほろ落ちる)
雨無情 雨無情 無想阮的前程	(明日はこの雨 やむかもしれぬ)
並無看顧 軟弱心性 乎阮前途失光明	(散るをいそぐな 可愛い花よ)
雨水滴 雨水滴 引阮入受難池	(雨に咲く花 しんからいとし)
怎樣乎阮 離葉離枝 永遠無人尙看見	(君を待つ夜を ほろほろ落ちる)

### 2-2-3 代表的な作品 『秋風夜雨』

詞を完成した後、周は楊に曲作りを依頼し、戦後の1954年にこの歌を作り上げた。歌詞は秋の淋しい風雨の夜を喩えにして、郷里を離れた淋しい気持ちや恋人と別れた未練溢れる少女の心などを表している。全体の内容は詩のようにできあがり、著者の名に恥じのない作品である。

『秋風夜雨』 詞：周添旺 曲：楊三郎

中国語の歌詞（日本語歌詞の要約）

風雨聲音擾亂秋夜靜 時常聽見蚯蚓啾悲情

（風雨の音で秋の夜が騒ぐ 蚯蚓の泣き声が聞こえてくる）

引阮思郷不知雨水冷 自恨自歎幸福未完成

（故郷を思い出される 雨の冷たさを感じない 幸せになれないと）

啊～前途茫茫 宛然失光明

（あ～～～未来がわからない 迷ってしまう）

希望純情結成好鴛鴦 無疑環境阻礙阮自由

（恋人になりたいけど 他人に邪魔されてしまう）

秋風夜雨也無替阮想 那通歸暝迫阮添憂愁

（秋の夜の雨も見方になってくれない 一晩中に気が塞いだ）

啊～思思念念 一日如三秋

（あ～～～恋しくなる）

風雨淒涼已經是秋分 離開故郷猶原這時拵

（もう秋になる 同じ季節に故里を出た）

彼時約束望你相信阮 堅心為你保守阮青春

（私は約束を守るから 信じてくれ）

啊～阮是可比海上小帆船

（あ～～～心が海に揺られる小船のように）

### 2-3 作詞家陳達儒について

本名は陳發生で、1917年に台北市の萬華に生まれた。幼い頃から、良い私塾で教育を受け、漢学を熟読したので、作詞の良好な基礎を築いた。彼の歌詞は詩のような情景がいっぱいあり、聴衆にすばらしい感動を与えた。



陳は1936年に19歳の若さでビクターレコード会社に入社して専任作詞家になり、作品量と実力は皆を驚かせた。同年のビクターレコード会社のレコードの発行量の三分の二は陳達儒の作品であった。

陳達儒はビクターレコード会社で専任作詞家をしている間、自らも帝蓄レコード会社を設立したため、多くの作曲家との合作でたくさんの名曲を創作していた。例えば、陳秋霖や姚讚福や蘇桐などが挙げられる。特に陳秋霖との音楽合作が一番多く、「二陳」で発表した曲はおよそ30首ぐらいである。

戦後、各業界が不景気に落ち、文学に携わっていた者にとって、仕事を探すのは一層難しかった。したがって陳がこの時期に発表した歌詞は社会事件や現象が多く反映され、作品の特色にもなっていた。例えば、『南都夜曲』や『安平追想曲』や『青春悲喜曲』はこの時期の代表作である。

1950年代以降、閩南語歌謡業界で「混血音楽」が盛んであったため、陳の作品が次第に少なくなった。結局陳は音楽を作るのをやめて食品業で働くことにした。1989年の第一回の「金曲獎」で、台湾歌謡界への貢献に対し、最高の敬意をはらうため、陳達儒に特別貢獻賞が贈られた。

1970年代から、歌謡の歴史を探訪するブームで、陳の作品はもう一度大衆に注目されていた。1977年に、音楽家の吳成家と『海辺月』を作った。1990年に発表した『吃果子拜樹頭』は最後の作品となった。1992年2月24日に癌のためこの世を去り、享年76歳であった。

### 2-3-1 代表的な作品 『心酸酸』

歌詞の前半の内容は就職のために遠隔地へ行ってしまった恋人や夫を思う慕情や寂しさを描いたものである。

日中戦争の勃発により軍夫として戦地へ派遣された人が更に多くなり、軍事機密による通信の禁止で消息不明な人が多かった。残された妻子たちは正に『心酸酸』という気分になり落ち込んでいたであろう。

『心酸酸』 詞：陳達儒 曲：姚讚福

中国語の歌詞（日本語歌詞の要約）

我君離開千里遠啊	(あなたは私を離れて行ってしまった)
放阮孤單守家門	(私を一人にさせた)
抹食抹睏脚手軟啊	(何もできない)
暝日思君心酸酸	(あなたのことばかり思っている)
無疑一去無倒返啊	(なぜ帰って来てくれないの)
辜負青春暝日長	(孤独だと感じる)
連寫批信煞來斷啊	(消息がないので)
呼阮等無心酸酸	(あなたに苦しませられる)
一時變心抹按算啊	(あなたの心が変わったら 私がどうしたらいい)
秋風慘淡草木黃	(秋風が吹いて草花が枯れる)
風冷情冷是無盼啊	(待っても帰って来てくれない)
光景引阮心酸酸	(秋の光景を見ると苦しくなる)

### 2-3-2 代表的な作品 『白牡丹』

1936年に陳達儒は19歳の若さで、この『白牡丹』を発表した。歌謡は女の人の純粋さを白い牡丹に喩えた内容である。本来は悲しい歌謡であったが、時代の変わりにつれて、楽しい歌に変わった。1989年にこの歌謡はレコード大賞の「金曲獎」によって特別貢献賞を受賞された。

『白牡丹』 作詞：陳達儒 作曲：陳秋霖  
中国語の歌詞（日本語歌詞の要約）

白牡丹笑咬咬

（白い牡丹のような女の人 いつも楽しい）

妖嬌含蕊等親君 無憂愁無怨恨

（悩みなし 怨みなしで好きな人を待つ）

單守花園一枝春 啊～單守花園一枝春

（あなただけ愛してる）

白牡丹白花蕊

（白い牡丹 白いつぼみ）

春風無來花無開 無亂開無亂美

（春が来るまで 花を咲かせない）

不願旋枝出牆圍 啊～不願旋枝出牆圍

（あなただけを愛してる）

白牡丹等君挽

（白い牡丹 愛されたい）

希望惜花頭一層

（愛されたい）

無嫌早無嫌慢

（いつになっても ずっと あなたを待っている）

甘願給君插花瓶 啊～甘願乎君插花瓶

（愛されたい）

#### 2-4 作曲家鄧雨賢について

台湾桃園県の龍潭において音楽家の鄧雨賢を偲ぶため台湾史上初の音楽家の記念銅像が建てられた。

鄧は1906年7月21日に桃園県の龍潭に生まれた。家族は皆優秀で殆ど教師として勤めていた。鄧はずっと音楽に憧れ、そのため、1929年から東京で作曲を研修し、音楽生活を送っていた。



鄧は39歳の若さでこの世を去ったが、短い生涯の中で50首以上の美しい曲を出した。1933年に『望春風』、『月夜愁』などの曲を創作し、翌年『雨夜花』、『青春讚』、『春宵吟』などを相次いで発表し、どの曲も人々に愛唱され、評価された。戦前、鄧は作詞家の周添旺と一緒に作った『雨夜花』で、閩南語歌謡界での地位を確立した。鄧は閩南語歌謡を創作していた時、積極的に伝統的な民謡と演劇を研究し、創作の題材として取り込んでいた。

#### 2-5 作曲家陳秋霖について

1911年に台北の社子に生まれた。台湾の伝統演劇である「歌仔戲」の家系の出身であったため、子供の時から伝統的な演劇を習っていた。10代から「歌仔戲」の舞台上で伴奏として音楽才能を発揮した。いろいろな中国の伝統楽器ができ、20歳から「歌仔戲」に関する研究に力を入れた。22歳にコロムビヤレコード会社に入社し、作曲し始めた。25歳の時、有名な『白牡丹』という歌謡を発表した。



陳は1936年に、コロムビヤレコード会社をやめて、ビクターレコード会社に移籍した。1938年に、友達と東亜レコード会社を創立した。しかし、1939年に皇民化運動が盛んになり、閩南語歌謡の売れ行きが大幅に落ちていて、そのうえ、社会全体が不景気であったため、帝蓄レコード会社が倒産した。戦後、陳秋霖は陳玉山という名前で再び曲を作り始めた。一方、レコード業界と映画業界でも活躍していた。忙しい事業に追われて、曲作りに専念する時間が少なくなった。有名な代表作は『白牡丹』、『滿山春色』である。1990年の第2回の「金曲獎」の特別貢献賞に受賞された。1991年に81歳でこの世を去った。

## 2-6 作曲家楊三郎について

本名は楊我成で1919年10月18日に台北県の永和に生まれた。著名の作品は『望你早歸』、『孤戀花』、『思念故郷』、『秋風夜雨』、『異郷夜月』、『黄昏故郷』、『落花淚影』、『純情恨』、『台北上午零時』などがある。1927年から、小学校に入り、管楽器への興味を示した。4年生のとき、学校の楽隊に参加していた。中学生の間、アルバイトしながら、勉強していた。好きな音楽をあきらめずに、学校の楽隊に入ってラッパ手を続けた。中学を卒業してから、家が没落したため、進学できなかった。その後、ダンスホールで働き始めた。楽



隊監督の鄭玉東先生に出会ったおかげで、楽隊の一員になった。楊はラッパの吹奏技術が次第に上手になり、音楽同好会の団体である「同聲俱樂部（同聲クラブ）」にも招かれ、ラッパを演奏していた。1938年に、日本へ渡り、作曲と作詞で有名な音楽家の清水茂雄のもとで音楽を学んでいた。1940年に台湾に帰国した。音楽の才能を発揮しようと思ったが、第二次世界大戦の最中であつたため、楊三郎は戦地の台湾を離れ、中国の東北へ行って、ダンスホールで演奏していた。1944年に再び台湾に帰国した。1946年に代表作の『望你早歸』を作曲した。戦後、周添旺と合作して『孤戀花』、『思念故郷』、『秋風夜雨』、『異郷夜月』などの作品を作った。その以降も創作を続けていたが、1976年から牧場の運営に力を入れた。1980年代後半から、閩南語歌謡は再び重視されていた。楊は音楽の仕事に復帰しようと思ったが、体の調子が悪くなり、1989年5月25日に病気のため逝去した。1992年に台北県の役所は彼のために作品のコンサートを行い、記念レコードを発行した。

## 2-6-1 代表的な作品『望你早歸』

この歌謡は戦後に発表された。作詞者の那卡諾は本名黄仲鑫で台南人である。歌詞の内容は南洋群島へ戦争に行ったきりである生死不明の夫を思う台湾の妻の虚しい心境を描いたものである。毎日何もできなくてただ月に願い、気持を夫に伝えてくれるように祈っていた。

『望你早歸』 詞：那卡諾 曲：楊三郎

中国語の歌詞（日本語歌詞の要約）

毎日思念你一人 抹得通相見

（毎日あなただけを思う なかなか会えなくて）

親像鴛鴦水鴨不時相隨 無疑會來拆分離

（おしどりのようにいつでもいられると なぜ別れさせられた）

牛郎織女他二人 每年有相會

（牽牛と織女はせめて毎年会える）

怎樣你那一去全然無批

（どうしてあなたが行ってしまう 全然手紙を出してくれない）

放捨阮孤單一個

（一人ぼっちにさせられて）

若是黃昏月亮要出來時 加添阮心內悲哀

（たぞかれ 月が出る時 悲しく感じるようになってくる）

你要甲阮離開彼一日 也是月亮要出來的時

（あなたが行ってしまった日も たぞかれのとき）

講阮每日悲傷流目屎 希望你早一日返來

（毎日悲しくて 早く帰ってきてくれと月に頼む）

上記は代表的な作詞家と作曲家について紹介した。



### 第三章 台湾民衆の閩南語歌謡に関する意識の実態調査

本調査は、2005年7月1日から8月31日にかけて「台湾における閩南語歌謡」に関して意識調査を実施した。

本調査は、無作為に選んだ全国の10代以上の826人を対象にメールと個別面接聴取法で行った。なお、総サンプル数の826件は全部有効回答である。その他、調査票の中国語原文と日本語翻訳文は巻末を参照のことである。

#### 3-1 対象者の基本データ

##### 3-1-1 年齢別

年齢からみると、今回の調査の中で、各年代の人数はほぼ同数である。40代以上の人が25.3%、10代と20代が同様に、それぞれ全体の24.9%を占めている。30代は全体の24.8%である。(表4)

表3 調査対象者の年齢別

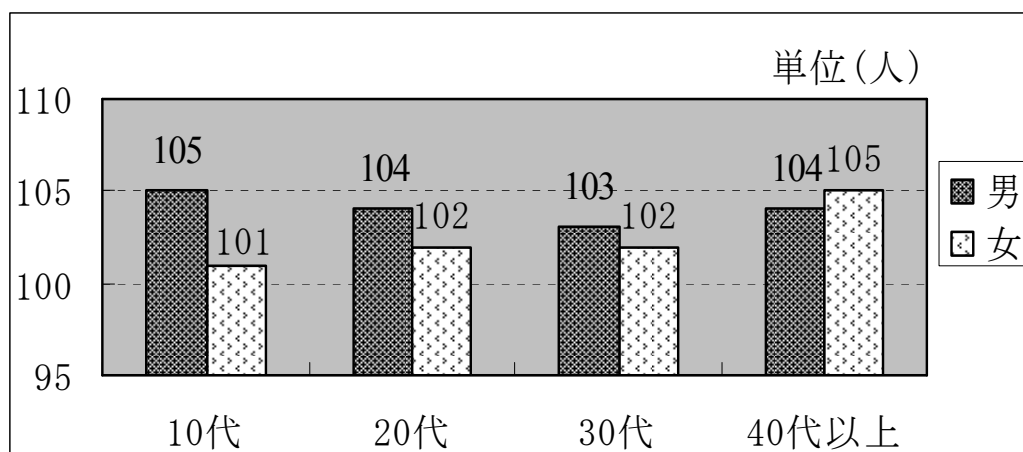


表4 年齢別の人数

	10代	20代	30代	40代以上
人数	206	206	205	209
%	24.9	24.9	24.8	25.3

### 3-1-2 母語別

母語別に見ると、「閩南語」では70.2%、「客家語」では8.7%、「中国語」では20.9%、「原住民語」では0.24%となっている（表5）。「閩南語」を挙げた人の割合はが最も多い。各母語別の比率はほぼ人口の比率に合っている。

表5 調査対象者の母語別

母語	閩南語	客家語	中国語	原住民語
人数	580	72	173	2
%	70.2	8.7	20.9	0.24

### 3-1-3 出身別

出身地別に見ると、「北部」では16.4%、「中部」では47.3%、「南部」では35.5%、「東部」では0.8%となっている（表6）。なお、今回の調査は主に台湾本島の住民を対象にした。

表6 調査対象者の出身別

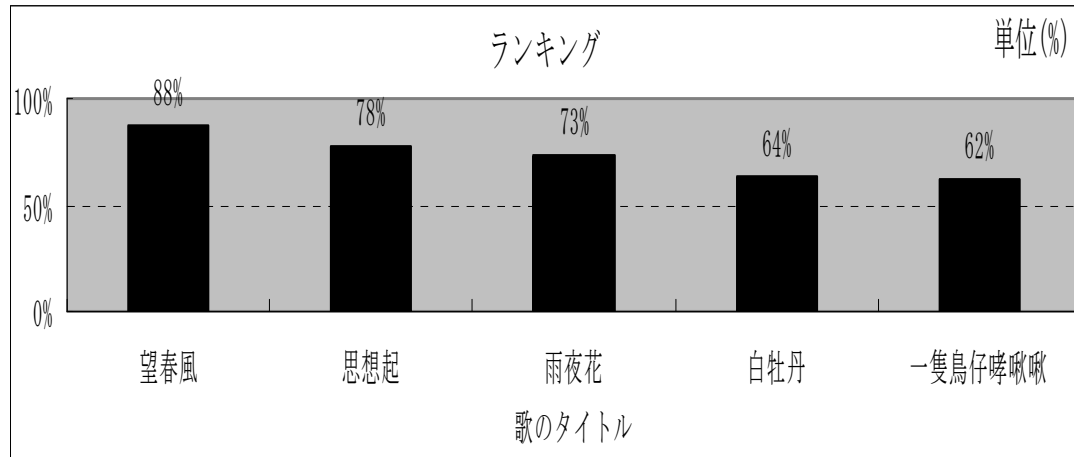
出身地別	北部	中部	南部	東部
人数	136	391	293	6
%	16.4	47.3	35.5	0.8

### 3-2 調査結果と分析

質問1「植民地時代の閩南語歌謡について聞いたことがあるのはどちらですか」

集計結果は下記の表7の通りである。調査票の15首歌謡の中に、『望春風』(88.0%)が最も多く、次いで『思想起』(78.0%)『雨夜花』(73.0%)が続いている。以下『白牡丹』(64.0%)、『一隻鳥仔啼啾啾』(62.0%)の順となった。なお、選択肢の歌謡は、歌謡探索<sup>1</sup>というホームページを参考し、選択肢の曲名をとりあげた。

表7



<sup>1</sup>「歌謡探索」 <http://www.hyes.tyc.edu.tw/~sk7/a4.htm> ,2005.11.24

質問3-1「カラオケで、植民地時代の閩南語歌謡を歌うか」

集計結果は表8のとおりである。「歌う」と答え人が37%で、「歌わない」と答え人が63%となっている。

表8

	総人数	歌う	歌わない
人数	826	304	522
%	100	37	63

「歌う」という意見を示した人の年齢を見ると（表9）、40代（1965年以前の生まれ）以上の人が多くに対し、30代以下の人（1975年以降の生まれ）が少ない。40代以上の方は植民地時代に関わる人、事、物に触れる機会が多かったため、その時代の歌謡を理解し、よく歌うと言えよう。一方、植民地時代の閩南語歌謡は若い世代にとって、遠い昔の事であるため、あまり注目されていないことが言えよう。

表9「質問1」に対して「歌う」という意見を示した人の年齢別

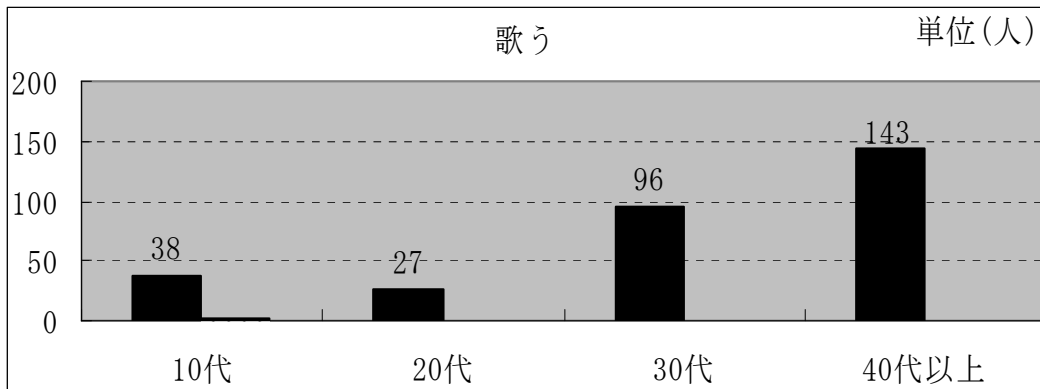
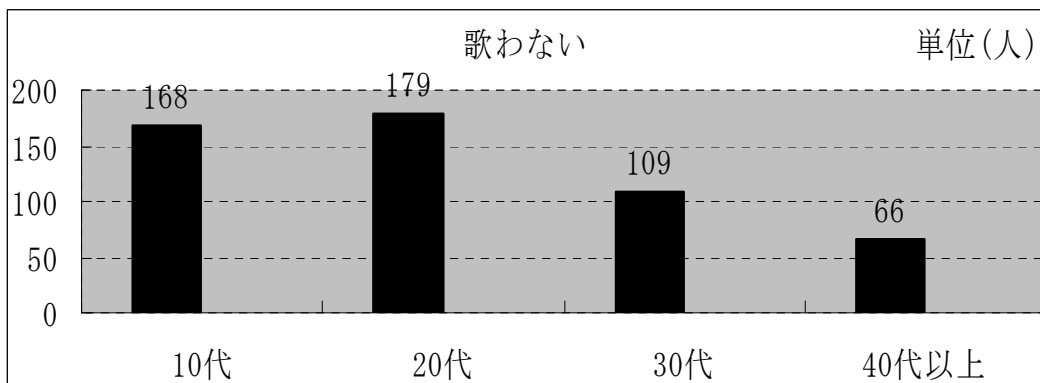


表10「質問1」に対して「歌わない」という意見を示した人の年齢別



質問3-2「カラオケで、今<sup>2</sup>の閩南語歌謡を歌うか」

質問3-2 調査結果によると、「よく歌う」が28.0%で、「時々歌う」が35.1%で、「偶に歌う」が19.7%で、「歌わない」が17.2%であった。「よく歌う」と「時々歌う」という二つの答えを合わせて「歌う」という意見をすると、今の閩南語歌謡を歌う人が全体の63.1%にのぼっている。(表11)

表 11

	総人数	よく歌う	時々歌う	偶に歌う	歌わない
人数	826	231	290	163	142
%	100	28.0	35.1	19.7	17.2

なお、年齢別から結果を集計してみた。ここでも「よく歌う」と「時々歌う」という二つの答えを合わせて「歌う」という意見とする。結果によると、10代の方は約40.3%、20代の方は57.8%、30代の方は77.1%、40代以上の方は78.5%となっている(表12)。全体から見ると、30代と40代の方はよくカラオケで閩南語歌謡を歌っていると言えるだろう。全体的に年齢を問わず、台湾の民衆は今の閩南語歌謡を歌うと言えよう。接待やお付き合いの時、お互いの気持を分かち合い、友好関係を築いていくうえに、今の閩南語歌謡は台湾民衆にとって一つの大切なコミュニケーションの手段であると言えよう。

表 12

	10代	20代	30代	40代
総人数	206	206	205	209
人	83	119	158	164
%	40.3	57.8	77.1	78.5

<sup>2</sup> 本稿で「今の閩南語歌謡」とは、1980年代以降の歌である。

表 13

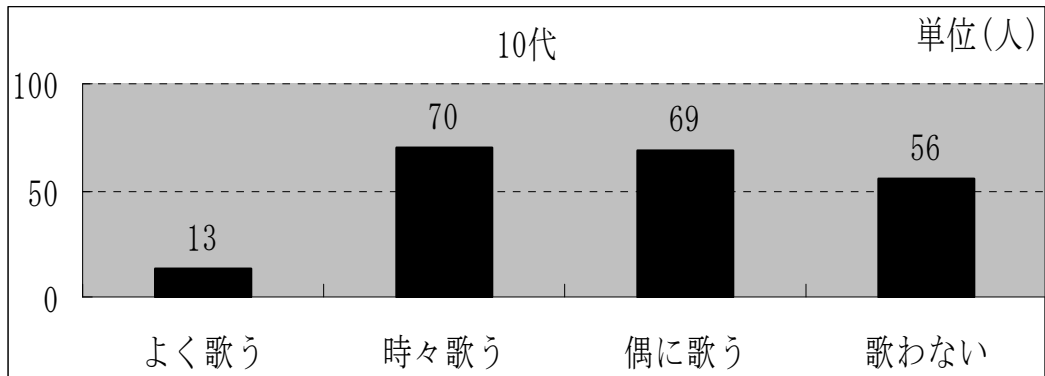


表 14

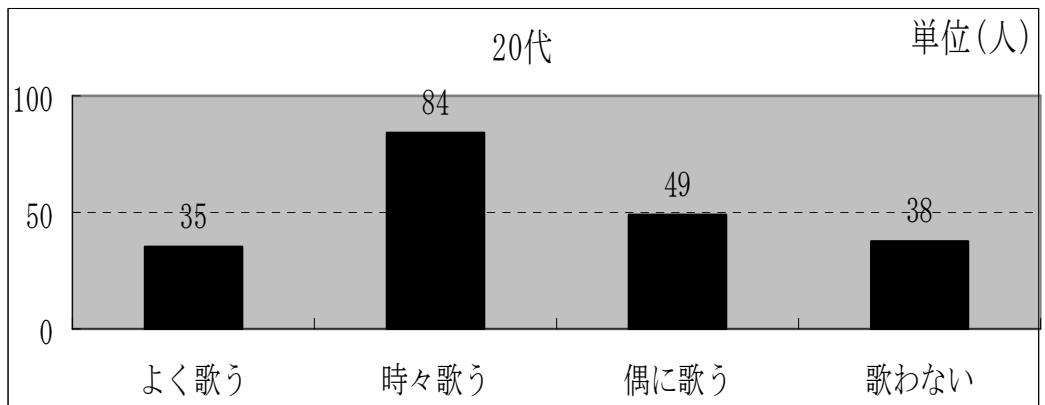


表 15

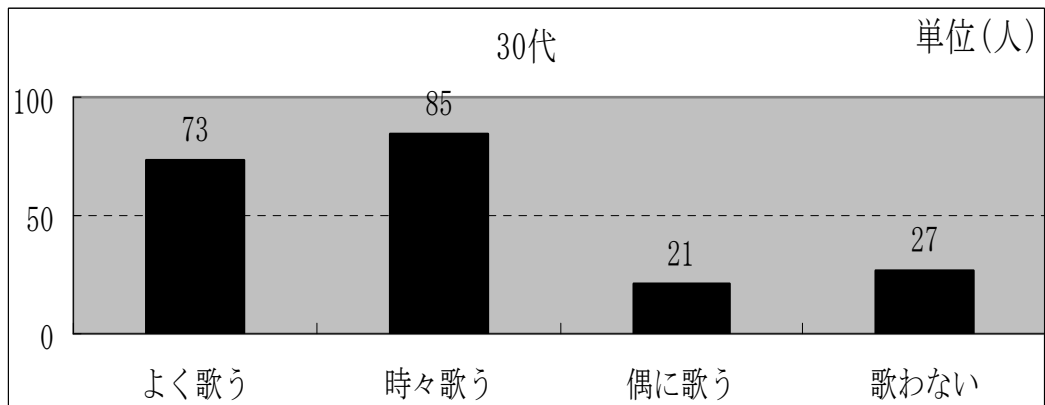
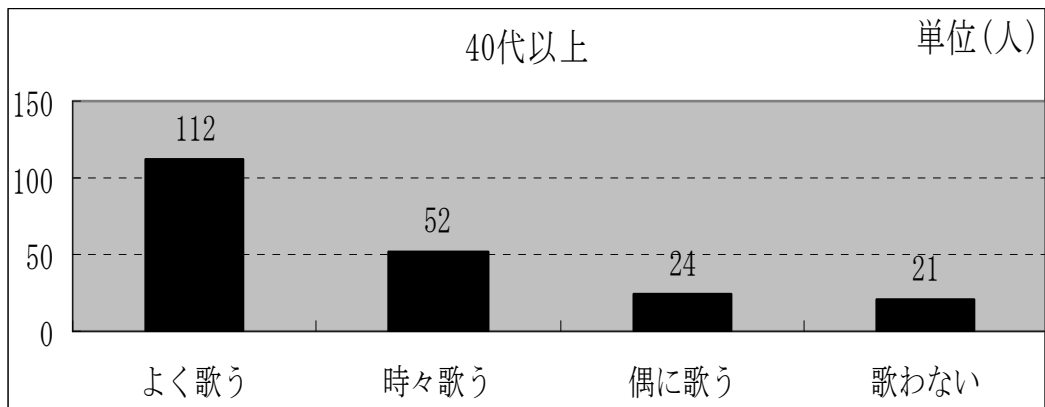


表 16



質問4-1「どうやって植民地時代の閩南語歌謡を知ったか」

質問4-1について複数回答で尋ねたところ、最も多かった回答は「マスメディア」が58.0%で、次いで「家族と友達」(24.3%)や「学校の教材」(7.9%)、「その他」(6.4%)、「インターネット」(3.4%)となっている(表17)。植民地時代から今まで既に110年があり、どうやって植民地時代の閩南語歌謡を知っているか知りたい。私たちの調査票の結果によると、大多数の調査対象者はマスメディアや家族と友達など通して植民地時代の閩南語歌謡を知った。歌の年代が遠くても、タイトルが分からなくても、現代の流行歌手の歌声などを通して、多くの人は植民地時代の閩南語歌謡に出会った。

表17

	インターネット	マスメディア	家族と友達	学校の教材	その他
人数	25	427	178	58	47
%	3.4	58.0	24.3	7.9	6.4



質問4-2「どうやって現在の閩南語歌謡を知ったか」

質問4-2について複数回答で聞いたところ、「マスメディア」が72.3%で、「家族と友達」が13.6%で、「インターネット」が6.6%で、「その他」が5.0%で、「学校の教材」が2.5%である。(表18) 上述の問題に比べると、「マスメディア」の影響が一番大きいという結果が出た。

表 18

	インターネット	マスメディア	家族と友達	学校の教材	その他
人数	52	573	108	20	40
%	6.6	72.3	13.6	2.5	5.0

マスメディアと答えた人の年齢別を見ると、あまり差がなかった。(表19) また、「インターネット」と答えた人の年齢別を見ると、青少年の人数が最も多かった。これはインターネット世代の行動の反映だと言えよう。

表 19

単位 (人)

	インターネット	マスメディア	家族と友達	学校の教材	その他
10代	22	125	35	6	16
20代	23	155	22	4	7
30代	5	165	31	10	11
40代以上	2	128	20	0	6

質問5「あなたは閩南語歌謡を子供や若い人に分かち合う？」

集計結果から見ると、「はい」という意見が64.2%で、「いいえ」という意見が35.8%である(表20)。年齢別から見ると、「はい」と答えた人の中で30代の人と40代以上の人を合わせてが一番多く(表21)、二つの合計はだいたい60.0%ぐらいである。30代と40代の方は植民地時代に関わる人、事、物に触れる機会が多かったため、その時代の歌謡をよく知っている。従って、10代と20代の人より閩南語歌謡を子供や若者に分うと言えよう。

表20

	総人数	はい	いいえ
人数	826	530	296
%	100	64.2	35.8

表21 「質問5」に対して「はい」と答えた人の年齢別

年齢	10代	20代	30代	40代以上	総数
人数	109	109	154	158	530
%	20.5	20.5	29.1	29.8	100

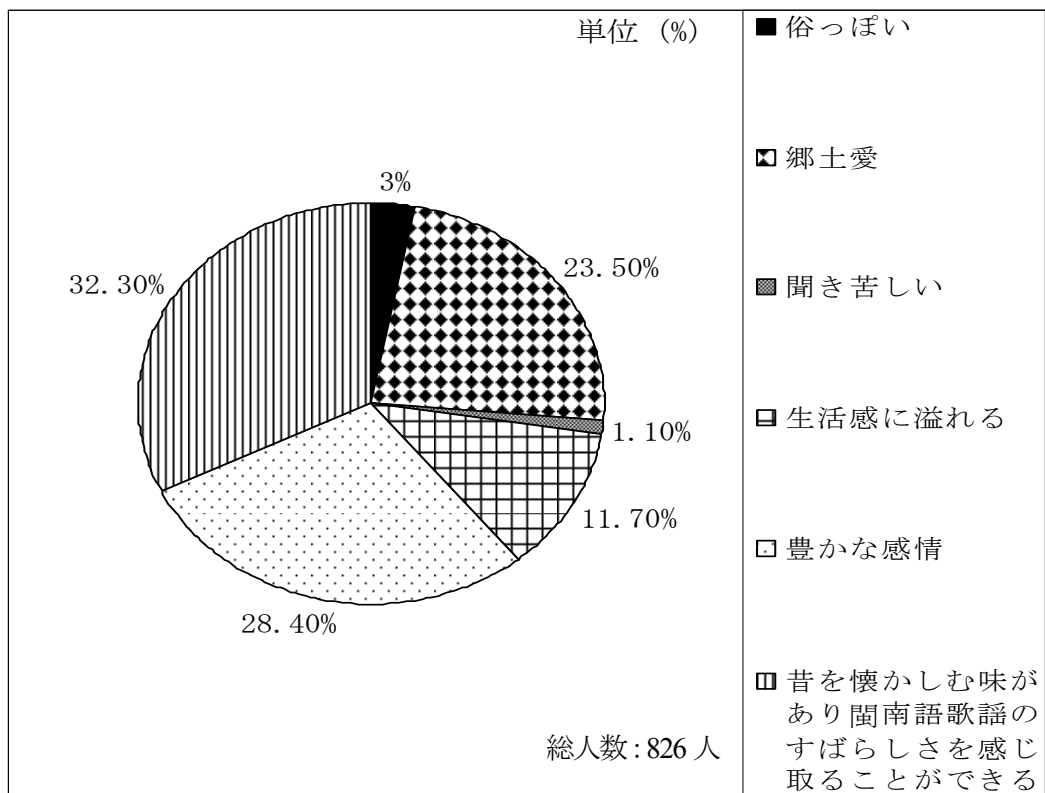
表22 「質問5」に対して「いいえ」と答えた人の年齢別

年齢	10代	20代	30代	40代以上	総数
人数	97	97	51	51	296
%	32.8	32.8	17.2	17.2	100

質問6「閩南語歌謡についてどう思いますか」

質問6について複数回答で尋ねたところ、最も多かった回答は「昔を懐かしむ味があり、閩南語歌謡のすばらしさを感じ取ることができる」が32.3%で、次いで「豊かな感情」(28.4%)や「郷土愛」(23.5%)、「生活感に溢れる」(11.7%)、「俗っぽい」(3%)、「聞き苦しい」(1.1%)となっている(表23)。「昔を懐かしむ味があり、閩南語歌謡のすばらしさを感じ取ることができる」と「豊かな感情」という答えの比率が半数以上を占めている。また、現在、台湾の音楽市場は中国語や西洋の音楽の大半を占めているの環境で、閩南語歌謡に触れる機会が少なくなっている。しかし、結果から見ると、台湾民衆は閩南語歌謡に対して全体的にプラスのイメージを持っていると言えよう。

表23



## 第四章 結論

本プロジェクトは、台湾民衆の、特に今日の台湾の若者の閩南語歌謡に対する意識の実態を解明するとともに、閩南語歌謡の発展を考えることを一つの目的としていた。参考文献にそって分析結果から以下の結論が言えよう。

### 1. 青少年の生活から日本植民時代の閩南語歌謡がだんだん消えて行くだろう

1980年以降生まれた人の生活は、西洋や日本のものに囲まれていたため、閩南語歌謡に接する機会が少なかった。彼らは閩南語歌謡についてあまり知らないと思われていた。しかし今回の調査結果から、今日の青少年の大多数が閩南語歌謡を歌うことがわかった。但、その閩南語歌謡は現在の新しい歌謡に偏っている。それに、あまり植民地時代の歌謡を聞かない。その状況から青少年の生活から植民地時代の閩南語歌謡がだんだん消えて行くだろう。

### 2. 40代以上の人にとって閩南語歌謡は大切である

調査結果を見ると、40代以上の人にとって、閩南語歌謡は大切であることが言えよう。植民地時代に関わる人、事、物に触れる機会が多かったため、40代以上の人はその時代の歌謡を理解している。接待やお付き合いの時、閩南語歌謡を通してお互いの気持を分かち合い、友好関係を築いていく。

### 3. 教育は歌謡の普及に影響を及ぼす

教育が歌謡の普及にどのような影響を与えているのか、今回の調査を通してよくわかったことがある。現在の小学校と中学校の「芸術と人文」<sup>1</sup>の授業に、『望春風』の紹介が一番多い。この現状は第三章の調査結果と一致した。しかし、その授業の教材の中で、植民地時代の歌謡より、中国語と西洋の音楽の紹介が多いである。つまり、現在の学校の教材による閩南語歌謡の紹介は限られている。前章の調査結果によると、マスメディアの伝達効果が最も良いことがわかった。しかし、それだけでは効果が限られる。学校の教育で歌謡のことをもっと学んだら、学生もより理解できたであろう。

### 4. マスメディアは歌謡の普及に大きい影響を与えている

マスメディアを通して閩南語歌謡を知った人が最も多かった調査結果から、閩南語歌謡の普及に対するマスメディアの影響力が最も大きいということが言えよう。現在、テレビなどでは植民地時代の歌謡が紹介されている。例えば、三立テレビ局の「黄金夜總會」という番組では、懐かしいメロディーをよく放送されている。メディアの力を通して植民地時代の閩南語歌謡もより多くの若者に伝えられるであろう。

### 5. 閩南語歌謡を普及させる民衆の意識と行動のずれ

<sup>1</sup> 「芸術と人文」は音楽と美術の授業に相当する。

調査結果によると、青少年世代は閩南語歌謡についてあまり認識していなかったことがわかった。一方、閩南語歌謡を若い世代に伝えたいと答えた人の比率は多かった。この二つの結果から見ると、若い世代に閩南語歌謡を伝えたいと答えた人の中で、実際に行動に移す人はどのくらい出るのか一つの興味深い課題になるであろう。

今回のプロジェクトは参考文献の研究とアンケート調査の結果によって、上記の結論をまとめた。最後に、メンバーたちの期待を述べて本論稿を終えることとする。

現在、台湾では北京話、閩南語、客家語、原住民の言葉が使われている。台湾の歌謡は閩南語歌謡だけではなく、客家語歌謡、原住民の伝統音楽もある。どうやってこれらの歌謡を押し広めるのか、政府と民間団体の力に頼るだけではなく、民衆の参与は最も大切である。この土地にある各種の歌謡文化のバランスの発展を推進すると同時に、外来の文化も包容していくことが私たちの今後の課題になるであろう。

## 参考文献

### インターネット

- 「abm168 のゲストブック」  
[http://www.geocities.jp/abm168/\\_GEO\\_MOBILE\\_/geobook4.html](http://www.geocities.jp/abm168/_GEO_MOBILE_/geobook4.html),200504.14
- 「歌い継がれる 台湾語歌謡曲」  
[http://www.sinorama.com.tw/jp/current\\_issue/show\\_issue.php?id=200269106006j.txt&page=5&show](http://www.sinorama.com.tw/jp/current_issue/show_issue.php?id=200269106006j.txt&page=5&show) ,2005.12.16
- 「思い出の曲」 <http://www.geocities.jp/abm168/OMOIDE/omoide.html>,2005.12.17
- 「台湾の歴史—植民地時代での近代化」
- <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/6613/Taiwan/History/history8.html>,2005.11.22
- 「台湾を理解するためのキーワード」  
[http://izumo.cool.ne.jp/masanori\\_asami/Taiwan/keywords\\_tw\\_20040123.html](http://izumo.cool.ne.jp/masanori_asami/Taiwan/keywords_tw_20040123.html),2005.12.09
- 「WEB Peripatos」 <http://www.kirihara-kyoiku.net/peripatos/02/01.html>,2005.12.15
- 「客家語—Word」 <http://bright7.com/8B7189C68CEA/>,2005.12.19
- 「台湾の歴史—オランダから日本植民統治まで」  
<http://www.wufi.org.tw/jpn/jng13.htm>,2005.12.19
- 「台湾・第2の光復（1）親日の謎を解く記念館」  
<http://tanakanews.com/a0330taiwan.htm>,2005.12.19
- 「Sino」  
[http://www.sinorama.com.tw/jp/current\\_issue/show\\_issue.php?id=200269106006j.txt&page=5&show](http://www.sinorama.com.tw/jp/current_issue/show_issue.php?id=200269106006j.txt&page=5&show)= 2005.12.19
- 「台語文化」 <http://demo1.nkbc.edu.tw/~t0015/country3.htm>,2005.03.10
- 「台湾歌謡臉譜」 <http://www.taiwan123.com.tw/musicface/face10-2.htm>,2005.05.12
- 「歌謡百年台湾」  
[http://udn.com/SPECIAL\\_ISSUE/CULTURE/TAIWAN100/people001.htm](http://udn.com/SPECIAL_ISSUE/CULTURE/TAIWAN100/people001.htm),2005.12.02
- 「莊永明的台湾古早味」  
<http://www.readingtimes.com.tw/folk/taiwan/people/peo-0207.htm>,2005.12.02
- 「台湾的店」 <http://www.legend.net.tw/abcbbs/w11.htm>,2005.12.02
- 「台湾咁仔店之台湾歌謡資料庫」  
<http://www.taiwan123.com.tw/musicdata/index.htm>,2005.03.30
- 「懷念台湾音楽家系列之六」 <http://media.ilc.edu.tw/music/MS/musician-06.HT>,2005.05.10
- 「郷土歌謡」 <http://www.legend.net.tw/abcbbs/m3.htm>,2005.05.02
- 「著名曲目」 <http://library.taiwanschoolnet.org/cyberfair2003/C0338330120/s39.htm>,2005.04.10
- 「不願旋枝出牆圍-台湾歌謡界的才子陳達儒」  
<http://vm.rdb.nthu.edu.tw/taiwan/34/main4-34-01.html>,2005.05.02
- 「2000/09/20聯合報」 <http://bbs.ee.ntu.edu.tw/boards/Taiwanese/14/1/114.html>,2005.05.02
- 「台湾空中文化藝術學苑」 <http://www.tpec.org.tw/air-art/learn/learn020421.htm>,2005.05.02

- 「日治時期」 <http://www.hyes.tyc.edu.tw/~sk7/frame17.htm>, 2005.8.14
- 「音樂台灣」 <http://www.legend.net.tw/abcbbbs/start.htm>, 2005.07.15
- 「奇摩知識」 <http://tw.knowledge.yahoo.com/question/?qid=1105060410437>, 2005.08.15
- 「鄉土歌謠」 <http://www.legend.net.tw/abcbbbs/m3.htm>, 2005.05.02
- 「民視新聞網—台灣筆會」  
<http://www.ftvn.com.tw/Topic/CaringTW/TWnotes/0118.htm>, 2005.12.01
- 「最佳拍檔—周添旺」 <http://m2.ssps.tpc.edu.tw/~sun/2-1.htm>, 2005.05.05
- 「話說台灣歌謠」
- [http://content.edu.tw/primary/music/tn\\_dg/localmusic/flok/default.htm](http://content.edu.tw/primary/music/tn_dg/localmusic/flok/default.htm), 2004.12.16
- 「台灣歌謠之父鄧雨賢」
- <http://library.taiwanschoolnet.org/cyberfair2001/C0118800001/w1.htm>, 2005.12.05
- 「鄉土電子書」 [http://www.town-all.org.tw/inside\\_ee\\_detail2.asp?BID=217](http://www.town-all.org.tw/inside_ee_detail2.asp?BID=217), 2005.8.30
- 「恆春墾丁國際歌謠節」 <http://www.3-winner.com.tw/>, 2005.8.30
- 「歌謠論述」 [http://www.taiwan123.com.tw/music/music\\_say3\\_index.htm](http://www.taiwan123.com.tw/music/music_say3_index.htm), 2005.8.30
- 「歌謠探索」 <http://www.hyes.tyc.edu.tw/~sk7/a4.htm> 2005.12.24
- 「望春風」 <http://www.kh.edu.tw/y20921/cns06.htm>, 2005.11.25
- 「皇民化運動」
- [http://www.education.ntu.edu.tw/wwwcourse/91\\_2/lessonplan3/imperial.htm](http://www.education.ntu.edu.tw/wwwcourse/91_2/lessonplan3/imperial.htm) , 2005.08.05
- 「台灣歌謠望春風」 <http://www.tpec.org.tw/air-art/contact/download/download015.pdf>, 2005.12.1
- 「皇民化教育」  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9A%87%E6%B0%91%E5%8C%96%E6%95%99%E8%82%B2>. 2005.11.22
- 「台灣歌曲介紹：望你早歸—戰時與黨外運動的苦難」  
<http://home.kimo.com.tw/tomtcatai/allpages/%B1%E6%A7A%A6%AD%C2k.htm>, 2005.12.05
- 劉雅芳 (2005) 「哭『掉』台灣歌謠：從自然民謠到日本軍歌，一個殖民、現代性的『扭轉』思考」 <<http://www.srcs.nctu.edu.tw/taiwanlit/issue6/2-3.htm>> 2005.07.15

## 書籍

- 大江志乃夫(1993)『近代日本と植民地7文化の中の植民地』岩波書店 pp.173-178
- 杜文靖(1993)『大家來唱台灣歌』台北縣立文化中心出版社 pp.4-6,p.8,p11,p22 pp.68-70., pp.180-181.
- 楊麗祝 (2004)『歌謠與生活——日治時期台灣的歌謠采集及其時代意義』稻鄉出版社 pp.170-178.
- 莊永明 (1995)『台灣歌謠追想曲』前衛出版社 pp.19-47.
- 陳怡華 (2005)『國小藝術與人文二上』翰林出版事業股份有限公司
- 邱瑞惠 (2004)『國小藝術與人文六上』南一書局企業股份有限公司
- 周淑卿 (2003)『國中藝術與人文二上』康軒文教事業股份有限公司
- 周淑卿 (2004)『國中藝術與人文二下』康軒文教事業股份有限公司
- 周淑卿 (2004)『國中藝術與人文三上』康軒文教事業股份有限公司
- 周淑卿 (2005)『國中藝術與人文三下』康軒文教事業股份有限公司

- 孫愛光 (1999) 『高級中學音樂一』 三民書局股份有限公司
- 梁秀伶 (2005) 『高中音樂史 4』 華興書局



調查票中国語版

〈 I 〉 個人的基本資料

- ◇ 性別 男 女
- ◇ 年齡 10~20 歲 21~30 歲 31~40 歲 41 歲以上
- ◇ 母語背景 台語 客家語 國語 原住民語
- ◇ 生長地 北部 中部 南部 東部

〈 II 〉 問題

1、聽過以下(1895-1945 年代)那些歌曲?(複選)

- (1)白牡丹 (2)雨夜花 (3)心酸酸 (4)心茫茫 (5)四季紅 (6)青春嶺
- (7)月夜愁 (8)思想起 (9)農村曲 (10)望春風 (11)滿山春色
- (12)河邊春夢 (13)秋風夜雨 (14)望你早歸 (15)一隻鳥仔哮啾啾
- (16)其它\_\_\_\_\_

2、以上的歌曲，那首最熟悉?(複選)

\_\_\_\_\_

3、(1)去 KTV 唱歌時是否會點上述的歌曲來唱?

- 會 不會

(2)去 KTV 唱歌時是否會點現在的閩南語歌曲?

- 經常 偶而 很少 不會

4、(1)請問您都是經由那些管道來認識上述(1895-1945 年代)的閩南語歌曲? (複選)

- 網路 電視媒體 親朋好友 學校教材 其它\_\_\_\_\_

(2)請問您都是經由那些管道來認識現代的閩南語歌曲? (複選)

- 網路 電視媒體 親朋好友 學校教材 其它\_\_\_\_\_

5、您是否會想將閩南語歌曲與晚輩分享?

- 會 不會

6、閩南語歌曲給您什麼樣的感覺?(複選)

- 有點俗氣 有鄉土味 很難聽 貼近生活 富有情感
- 有懷舊的滋味，能感受台語音域的美妙

7、對於台語歌有其它的想法(看法)嗎?

\_\_\_\_\_

調査票日本語訳

〈I〉個人の基本データ

- ◇ 性別 男 女  
◇ 年齢 10-20歳 21-30歳 31-40歳 41歳以上  
◇ 母語 閩南語 客家語 中国語 原住民語  
◇ 出身地 北部 中部 南部 東部

〈II〉質問

1. 以下は植民地時代（1895～1945年）の閩南語歌謡です。聞いたことがあるのはどちらですか。（複数回答）

- (1) 白牡丹 (2) 雨夜花 (3) 心酸酸 (4) 心茫茫 (5) 四季紅  
(6) 青春嶺 (7) 月夜愁 (8) 思想起 (9) 農村曲 (10) 望春風  
(11) 滿山春色 (12) 河邊春夢 (13) 秋風夜雨 (14) 望你早歸  
(15) 一隻鳥仔哮啾啾 (16) その他\_\_\_\_\_

2. 質問1の歌謡について、よく知っているのはどちらですか。（複数回答）

\_\_\_\_\_

3. (1) カラオケで、質問1の歌謡を歌いますか。

- 歌う 歌わない

(2) カラオケで、今の閩南語歌謡を歌いますか。

- よく歌う 時々歌う 偶に歌う 歌わない

4. (1) どうやって植民地時代の閩南語歌謡を知りましたか。（複数回答）

- インターネット マスメディア 家族と友達 学校の教材 その他\_\_\_\_\_

(2) どうやって今の閩南語歌謡を知りましたか。（複数回答）

- インターネット マスメディア 家族と友達 学校の教材 その他\_\_\_\_\_

5. あなたは閩南語歌謡を子供や若い人に分かち合いたいですか。

- はい いいえ

6. 閩南語歌謡についてどう思いますか。（複数回答）

- 俗っぽい 郷土愛 聞き苦しい 生活感に溢れる 豊かな感情  
昔を懐かしむ味があり、閩南語歌謡のすばらしさを感じ取ることができる。

7. 閩南語歌謡についての他のご意見。 \_\_\_\_\_